

2019年度（平成31年度）事業計画

（2019年4月1日から2020年3月31日まで）

1. はじめに

1. 2019年度は、日配工役員改選の年でもあり、新たな体制での活動を開始する。
2. 政府の「未来投資戦略2018」では、AIがビッグデータを解析し人へフィードバックする超スマート社会（Society 5.0）が紹介されている。経済発展と社会的課題の解決を両立する超スマート社会の実現により、誰もが快適に生活できる人間中心の社会が描かれており、大いに期待するところである。
3. 政府経済見通し（2月閣議）は「景気は緩やかに回復している。」と現状を認識し、先行きについて「雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。」としており、景気の回復の期待を明記されているが、「通商問題の動向が世界経済に与える影響に留意する必要がある。」ことも指摘している。
4. 当工業会を取り巻く環境においては、2018年度の新設住宅着工件数減少に影響を受け、2018年度の工業会出荷金額は、年間で965.9億円（対前年比97.9%）でした。

2019年度は、経済の好循環を、持続的な成長路線に結びつけ、戦後最大の「名目GDP600兆円」の実現を目指す安倍政権の個人消費、設備投資などの増加を期待するところである。こうした中、当工業会の扱い品目であるHEMS対応住宅用分電盤や、感震機能付住宅用分電盤、電気自動車充電設備、高機能配線器具類の伸びを期待したい。

なお、2019年度の出荷金額は消費税増税の影響を受け、対前年比で点滅器100.1%、接続器100.6%、住宅用分電盤101.3%、その他を含む合計で100.3%、絶対額で969.2億円と推定している。

2019年度（2019年4月～2020年3月）出荷金額予測

（2019年5月時点予測）

	上期 (%)	下期 (%)	年度 (%)
点滅器	103.2	97.5	100.1
接続器	103.5	97.9	100.6
開閉器	92.0	83.8	86.9
住宅用分電盤	102.7	100.0	101.3
EV盤	145.4	128.4	136.0
信号・情報機器	91.7	91.6	91.7
総額	102.9	98.0	100.3

5. 第5次中期計画の重点テーマを中心に活動していく。特に、「新規分野開拓活動」を積極的に推進していく。そのため、「配線システム」の名にふさわしい新たな事業分野の拡大を指向する。
IoT時代の配線器具として、AIスピーカーなど他の機器から配線器具を遠隔操作することが、繋がる基礎となるため、専門委員会を横断して技術委員会などを中心に配線器具の遠隔操作の安全性を維持する技術的要求事項を日配工で纏め、提案する。

2. 最重点課題

第5次中期計画5大活動テーマの推進

- 1) 配線システムからの火災事故を撲滅する「安全品質の追及活動」
- 2) 交換リニューアル市場を構築する「安全・点検リニューアル活動」
- 3) 低炭素社会を配線システムで実現する「環境対応推進活動」
- 4) 新しい配線システムの標準化で安心を造りだす「標準化推進活動」
- 5) 新しい分野の市場を開拓する「新規分野開拓活動」

3. 重点項目 (定款順)

1. 配線システム及び配線器具に関する生産、流通等の調査及び研究
 - ・出荷統計調査(接地極付きコンセント含む)、需要動向・流通動向の早期集計
2. 配線システム及び配線器具に関する技術の調査及び研究
 - ・技術動向、技術課題等に関する調査及び研究
3. 配線システム及び配線器具に関する情報の収集及び提供
 - ・市場動向、環境問題等に関する情報収集及び提供
4. 配線システム及び配線器具に関する普及及び啓発
 - ・日配工の提案する製品の普及と安全点検など使用者への啓発
5. 配線システム及び配線器具に関する規格の立案及び推進
 - ・各種規格作成委員会活動の推進と取り纏め
6. 配線システム及び配線器具に関する内外関係機関等との交流及び協力
 - ・国内関係機関及び海外関係機関との協調体制構築
7. 前各号に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

4. 具体的実施事項

第5次中期計画5大テーマの具体的実施事項

- 1) 「安全品質の追及活動」の推進
 - ①電安法技術基準解釈別表第四「配線器具」の遠隔操作の解釈にA Iスピーカでの操作などの解説を追加し試験方法などの明確化
 - ②プラグ付電源コードの安全性向上:
 - ・断線スパークに対するレベル設定の基礎となる試験方法を見直し、日配工資料を作成する。
 - ・コードの二重被覆コードの推奨、二重成形プラグの推奨。
 - ③電安法技術基準解釈別表第四での白熱灯に代わる、開閉試験方法の検討(ハロゲンランプ)
 - ④ユーザへの誤使用防止啓発活動の推進
- 2) 「安全・点検リニューアル活動」の推進
 - ①安全点検PR活動の推進
 - ・「配線器具の日」行事(2019年11月11日)首都圏、名古屋、大阪の3地区で実施
 - ・JECA FAIR 2019 電設工業展へ出展(2019年5月22~24日 東京ビッグサイト)
 - ・一般ユーザへのホームページの有効活用

②「交換の目安」の訴求

- ・住宅用分電盤、配線器具の取替え交換需要を掘り起こすため、「スイッチ・コンセントは10年」「住宅用分電盤は13年」「テーブルタップは3～5年」のパンフなどにて訴求。

③ 感震機能付き住宅用分電盤の普及

- ・2019年に内線規程が改正され、「危険な密集市街地」より広い範囲である「地震時等の電気火災の発生・延焼等の危険解消に取り組むべき地域」や都市計画法に基づく「防火地域」「準防火地域」の住宅に感震機能付き住宅用分電盤の設置が勧告となることを契機に、感震機能付き住宅用分電盤を広く周知し、自治体等の補助金制度の支援などで普及を図る。

④ 配線器具の適切な設置個数・設置場所の提案検討

- ・スマートホンなど増加する充電を要する機器に対し適切なコンセントの数を内線規程に織り込むための理論武装を構築する。
- ・既築住宅の配線器具・住宅用分電盤の交換を行うための理論武装を構築する
- ・日配工独自の提案として、家具に隠れるコンセントを配慮したコンセントの数、場所、高さなどの提案

⑤家電 PL センター情報交換会

- ・配線器具、住宅用分電盤の事故情報の共有化。

3)「環境対応推進活動」の推進

- ①電気自動車充電インフラに関し、経済産業省・国土交通省と連携し普及を図る。

- ②環境関連情報の発信を実施

- ③技術講習会の実施（東京地区と名古屋地区）

- ・会員会社にとって、時代にあった関心の高いテーマの技術講習会を企画する。名古屋地区での技術講習会は、住宅用分電盤専門委員会にて開催する。

- ④施設見学会の実施

- ・音羽電機工業様の雷テクノロジーセンター（尼崎）の見学会を企画する。

4)「標準化推進活動」の推進

- ①新 JIS C 8300「配線器具の安全性」を電気用品安全法 技術基準解釈別表第12の整合規格に採用して頂く提案を実施する。

- ・電気用品技術基準解釈別表第四が、将来廃止されることに備え、別表第四「配線器具」の技術基準解釈の内容を JIS 化し、整合規格として採用して頂くことで、現行の配線器具が製造・販売できるようにする。

- ② JIS C 8282-2-5「家庭用及びこれに類する用途のプラグ及びコンセントー 第2-5部：アダプタの個別要求事項」の改正原案作成

- ③ JIS C 8201-3「低圧開閉装置及び制御装置ー 第3部：開閉器，断路器，断路器用開閉器及びヒューズ組みユニット」改正準備

- ④ JWDS 0010「コードセット」改正検討

- 廃止した JWDS0028「電源プラグの耐トラッキング性」の引用を修正する。

- ⑤ IEC 国際会議への委員派遣

- ・IEC SC23B の作業会（MT4）へ委員を各2名派遣する。

（2019年4月 イタリア ベレーゼ）

(2019年10月 シンガポール)

5) 「新規分野開拓活動」の推進

- ・顧客に、新たな満足を与えることができる分野を開拓する。
 - ① 情報機器など、機能接地を必要とする電気製品の増加に対し、接地極付コンセントの施工提案をコンセントの設置数増加提案と絡めて「コンセントの適正設置提案検討WG」を発足し検討する。(技術委員会)
 - ② IoT時代の配線器具の将来構想検討の第一段として、電安法 技術基準解釈別表第四で規定する3件の遠隔操作の解説を「遠隔操作解説の見直しWG」を発足し見直し案を作成する。(技術委員会)

5. その他

- ・日配工 役員の改選 (5月)
- ・住宅用分電盤認定審査委員会 (2回/年)
- ・日配工会報の発行 (3回/年) (6月、10月、1月)
- ・日配工需要予測の算出 (2回/年) (5月、1月)
- ・施設見学会 (9月)
- ・技術講習会 (2月)
- ・住宅用分電盤専門委員会の三団体 (キャビネット工業会、盤標準化協議会、日配工) 情報交換会 参画
- ・照明4団体事務局連絡会 (照明工、照明学会、LED照明推進協議会、日配工) 参画
- ・日配工卓上カレンダー作成、配布。

以上